

新たに導入したバラ ヒロシマ平和公園

在岡孝行

平成11年1月ドイツのエルトビレ市より寄贈されたバラを、広島市国際平和推進室及び緑政課を通じ、苗木の育成、管理を委託され、栽培したので経過並びに生育特性などを記録しておく。

エルトビレ市はドイツ中西部のライン河に面した小都市で、ワイン用のブドウの産地として知られているが、ドイツ各地にあるローゼンシュタット（バラの町）に指定された街の1つである。エルトビレ市がローゼンシュタットとなつた10周年記念とし、以前から交流のあつた、元日本バラ会中国支部長原田東岷氏に、ヒロシマにちなんだ名前の付けられたバラの新種の寄贈がホフマン市長より打診された。

同市のマインツ城には、350種3000株のバラ園があり、市内の公園や家庭の庭にも多くのバラが植栽されている。そこには旧知の元公園局長ラインハルトプッシュ氏（2度来広、来園）により、広島バラ会より寄贈された、ヒロシマチルドレン、ヒロシマアピール、ピースメーカなど、いわゆるヒロシマのバラが数多く栽培され、美しく開花していた（平成7年6月訪独）。なおシュタットエルトビレと名付けられた赤色のフロリバンダ種もあり、当園でも栽培している。平成10年6月5日に記念式典並びに命名式が行われ、広島市市長ほか関係者に参加の呼びかけがあつたが、実現しなかつた。その際原田氏の要望により、平成9年度ドイツローゼンユニオンゴールドメダルの黄色のフロリバンダ種が、ヒロシマ平和公園（Friendspark Hiroshima）と命名された。

平成11年1月7日ドイツより空輸された苗木46本が広島市長宛に送られ、関係者による協議の結果、16本がバラ会会員に、30本が広島市で管理されることに決定された。この30本は、植えつけ時期、場所



の問題や、樹勢回復、苗木の養生などの事情により当園でしばらく管理することになった。

なお、送られた苗木には登録番号NO4992のラベルが付けられ、ロサ・カニナの台木に芽接ぎされたものであった。

当園ではポリ鉢10号に植えて屋根下にて管理した。受けた時点では株の衰弱がひどい状態であつたが、今のところ30株全部が順調に生育しており、育成後は市内の公園に植栽される予定である。

ヒロシマ平和公園（Friendspark Hiroshima）の特性

花 色	鮮橙黄（vivid reddish yellow） 農水省カラーチャート 2205 退色しにくい
花 形	半剣弁高芯
花 数	20～30枚
花 径	6～8 cm
香 気	強香 フルーツ香
葉 色	穩緑（dull green） 農水省カラーチャート 4310
葉 形	大型、丸葉 新葉はやや赤銅色
葉 刺	基部の広い三角形 まばらにつく
分 類	四季咲き中輪種（FL） 大きな房咲きにならない（1～3花）
耐 病 性	普通～やや強い
樹 高	約50～60 cm
樹 形	やや横張り性

いずれも鉢植え屋根下栽培による調査